ROACH 激モッシュ!! taamaの vol.9

『CALL ME LAZY』
2014.9.3 ON SALE!!

ワラッ？激ロックジャンキーのファッキンロックナード諸君！ファインしてたかい？？

ROACHは9.3にシングルをリリースウィル！ファックイエー！
その名も「CALL ME LAZY」ナマケモノと呼んでくれ！！
複雑すぎる社会の中で『やりたい事』よりも『やらなきゃいけない事』の方が優先しなきゃいけないなんてファックだぜー！やりたくない事はやりたくないんだもんー！サウンズライクそんな感じのだをこねたペイビーソングさ。
ここ激ロックマガジンでもインタビューも受けたから、チェックしてくれよな！
動画メッセージも最高にクールなやつが出来上がったから楽しみにしてくれよ！！

ここ最近のミーはというと、ROACHのマネジメントレーベルをチェンジしたり、引越ししたり、マイフレンズがトーキョーに引っ越してきたり、逆に悲しい別れがあったり、ミートアンドリーブてんこ盛りで色んな事がサムシングニューでスタートさ！

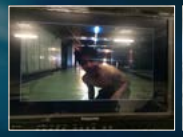
リリースツアーも素敵なバンド達とサーキットするつもりだから激ロックマガジンをナウでリードしてるユーはマストカム！

ただいまニューTシャツのデジインをDOCAN!のコータとミーティング中。エビバデ、どんなTシャツをユーウォントですか？？

今回はMUSIC VIDEOの撮影を都内某所、地下駐車場にてシューティングしてみたんだ。
ファッキン暑くて気を抜くとデスしそうだったよ！苦笑

撮影を1回し取り終わる度に服を全部脱いでパンツ一丁になったもんさ。
地下駐車場だからノープロブレムだろうって事でそのままトイレまでいったら撮影中にクレームのストームさ。トーキョーはなかなか難しい街だねHAHAHA。

バイダウェイ、ラフであがってきたムービーをルッキングするだけで、スーパークールだったから、スーパーアメージングな作品に仕上がる気がしてるんだ。楽しみにウェイティングしててくれよな！！



こんな感じの撮影風景。
そして俺、裸。笑
個人的に見たい方は声かけてねん♥

リベリオンのイベント会場にてクリスタル兄さん方とアルテマこーへーちゃんと！なかよく壁にサイン書いてきたんで！
後続隊待ってます！

THREE LIGHTS DOWN KINGS グリエルモ コーイチの ブレインベーダー SF映画編 VOL.3

3rd Mini Album
"ALL or NOTHING"
NOW ON SALE!!

ハイ！暑いです！まさに夏本番！
暑さでダラダラしがちですがビシッと激ロックコラム書きたいと思います。
と言うことで、楽しいブレインベーダーSF映画編のお時間がやってきました！笑
どーも！THREE LIGHTS DOWN KINGS ヴォーカル Glielmo Ko-ichi(グリエルモ コーイチ)です。
今回で3回目となるこのコラムかなりマニアックになってきました。苦笑
今回も遠慮なくSF映画のディープな話をさせて頂きます。
当コラムではSFヲタクの僕が、独学で手に入れた知識とSFヲタクならではのマニアックな見解でSF映画の魅力をできる限りお伝えしています。
さぁ！早速3回目となるブレインベーダーSF映画編始めましょう。
猫さんご一緒に！
せーの！
SFスイッチーーー！
オーーーーーーン！
前回は1950年代のSF映画の歴史とその時代背景が作品へもたらした影響などのお話をさせて頂きました。
今回は前回の予告通り、1960年代の作品と時代背景が作品へもたらした影響などのお話をしたいと思います。
早速1960年代に遡ってみましょう。
この年代は特撮技術が発達し、様々なジャンルのSF映画が生まれました。
それと、カラー映画が中心となった時代です。他には画面もシネマスコープや70mmなどの大きいサイズの作品が増え従来のSF映画より更に迫力が増してくるのもこの時代からです。
まず何故、上記の様な時代になったのか？その最大の理由はテレビの普及です。
え？！面白くなって来たね？！笑
従ってこの時代のSF映画は迫力感を売りにした作品が多く目立ちます。
「5!4!3!2!1!サンダバー！アーゴー」でお馴染みジェリー・アンダーソンの作品「サンダーバード」（1965年）もこの時代の作品で、とにかく爆発シーンが多い！汗
SF特撮作品の金字塔とも言える「サンダーバード」でもわかるように大掛かりな爆薬の仕掛けや各SF映画に登場する宇宙船などの模型のクオリティーの高さ、そして舞台セットの完成度の高さがカラーで従来よりも鮮明に映す事ができるようになったため迫力感を更に引きさてたと言えるでしょう。
そして、そんな中、生まれたのがSF映画ファンのみならず映画好きの人なら誰でも知っている名画中の名画「2001年宇宙の旅」（1968年）！！！！
とにかかこの映画はすべてがすごい、ストーリー、カメラワーク、音使い、音楽、台詞、舞台セット、視覚的影響力、他にも色々、とにかく規格外の作品です。まさにSF映画界の革命作！！！
もちろん今回キーワードになっている迫力感も半端じゃないです。汗！監督は、僕が一番好きな監督スタンリー・キューブリック！ちなみにこの作品の4年後に「時計じかけのオレンジ」を世に送ります。
そして、それともう一つ忘れてはいけない名画が「猿の惑星」（1968年）！！！皆さん知ってますよね？
そんな1960年代のSF映画の世界ですが、一つの衝撃を迎えます。
それは、1969年にアポロ11号が月面着陸に成功したと言うこと。これによって、本物が存在してしまったため宇宙系のSF映画が減ってしまいました。
でも、このことをありより一層現実離れした奇想天外な発想が生まれオリジナリティー溢れる作品がどんどん誕生するのです。
そして、1970年代にいよいよ本格的にSFブームを巻き起こすのです！
テレビの普及や進歩し続ける宇宙開発などの時代背景に常に対応し、よりリアルでよりロマンの詰まった作品を生み出した1960年代の映画中に登場する様々な未来道具（テレビ電話など）が今現在当たり前の時代になっています。
第1回目の当コラムでお話しした通り「この先に実在するかもしれないという、なんとも言えない不思議な感覚によって掻きも夢と期待感こそSF世界の最大のロマン！
まさにそうゆう事なのです。
だからSF映画は面白いのです。
今回のSF映画の歴史はこのくらいにしておきます！
普通にまとしてもも文字数が大変な事になってます。汗！
SF映画の話は語りきれません。汗！